

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4170300299
法人名	有限会社 ヴァンヴェール
事業所名	グループホームこもれび
訪問調査日	平成20年3月25日
評価確定日	平成20年6月10日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170300299
法人名	有限会社 ヴァンヴェール
事業所名	グループホーム こもれび
所在地	佐賀県鳥栖市田代昌町462番地1 (電話) 0942-87-3456

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年6月10日

## 【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 6人, 非常勤 13人,	常勤換算 13.5人

### (2) 建物概要

建物構造	A棟:木造	B棟:木造
	A棟:平屋	B棟:2階建ての1階~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	11,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	昼食代に含む 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	17名	男性	8名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	3名		
年齢	平均 79.3 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	やよいがおか鹿毛病院、鳴田病院、久留米聖マリア病院、権藤医院 権藤内科循環器科 門司歯科医院
---------	---------------------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>木造2階建ての家と庭を挟んで建つ平屋建てのホームである。民家改良型のA棟とそれに続いて建築されたB棟は、市街地から離れた自然の環境の中、木の温もりのあるホームであり、リビングその他には季節の草花や雛飾り、絵など季節感を取り入れて心を和ませている。入居者はゆったりとした流れの中、マイペースでその人らしく日々を送っている。医療連携体制が整備され、看護師3名が職員として常駐しており、急病や事故等突発的なことにも対応できる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との交流が改善課題となったが、地域の自治会へ加入し、班長業務を受けたり、地区の清掃やリサイクル用品分別収集の当番、葬式のお手伝いをする等改善への取り組みが図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員等は、評価の意義をよく理解しており、自己評価は全職員で現在の取り組み状況を点検しており、改善を要する事項については、ミーティングで話し合いながら一つずつ取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定例の運営推進会議の主な議題は運営に関する報告であるが、行事の進め方やメンバー及び家族からの提案・意見が討議されている。家族会の設置も本会議で提案され決められた。運営面の提案・意見等はホームのミーティングで対応を検討し、改善に向け取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見等については、契約書や重要事項説明書で苦情相談窓口(外部も含む)を明記し、意見箱を設置している他、家族来訪時には何でも話して貰えるようその都度伝え、また、運営推進会議でもPRしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人々とは散歩時の挨拶や立ち話をする程度であったが、現在は地域の自治会に加入しており、班長業務を受けたり、地域活動にも参加している。しかし、地域の人が気軽にホームを訪問したり、地域の行事等に積極的に参加するまでには至っておらず、更なる交流が期待される。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護者の思いを込めた理念が作られ、リビングその他各所に掲示されている。	○	「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」の具体的なイメージを持った理念作りの検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に2回開催されるミーティングで理念について話し合い、その共有を図っており、日々のケアの中でその実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会へ加入し、班長業務(区費の徴収・回覧板・文書配付等)を受けたり、地区の清掃やリサイクル用品分別収集の当番、葬式のお手伝いをするなど地域との付き合いに努力している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員等は、評価の意義をよく理解しており、自己評価は全職員に配布された評価表でそれぞれ現状を点検している。自己・外部評価で改善を要する事項についてはミーティングで話し合いながら取り組んでいる。	○	改善のため取り組んでいく項目については、改善計画表を作成するなど全職員がその成り行きを確認しながら取り組めるような工夫も望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例会議が開催され、運営面の報告のほかメンバーや家族から提案された議題についても協議しており、メンバーの発言も活発である。家族会の設置も会議で提案されて実現している。	○	会議のメンバーの構成者に地域の代表者がかかりつけ医1名となっている。地域密着型サービス事業所として、地域で必要とされる活動や役割を果たしていく際の地域との積極的な関係を築いていくためにも、運営推進会議が地域住民や行政の職員など幅広い立場の人に参加してもらえるようなメンバー構成の見直しも期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス提供に関して疑問があるときはまず市担当者に相談するほか近隣トラブルなど、ことあるごとに情報提供するなど、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時には必ず日常の暮らしぶりなどを話している。遠方の家族には、毎月の請求書送付時、健康状態その他を伝える文書を同封する他、電話でも適宜報告している。金銭管理については、毎月月初めに明細記載請求書と領収書を同封して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には意見等何でも遠慮なく話してもらえるよういつも伝えており、重要事項説明書に苦情相談窓口(外部窓口含む)を明記し、意見箱も置いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、常勤職員の離職は無く、異動もユニット間の交代2名のみであり、勤務時間の都合で退職を申し出た職員をフルタイムからパート勤務へ変えるなど、離職・異動を極力抑える努力をし、代わる場合は、利用者へ十分説明するなど、動揺しないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて外部研修(認知症介護者実務者研修等)を受けている。研修後はホームで報告会を行い伝達講習を実施している。また、ホームでも毎月技術向上などの研修や勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加し毎月の勉強会には内容に応じ、管理者や職員が出席している。出席者同士の情報交換や交流も行われ、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や1～3日程度の体験入所をしてもらっている。また、充実な話し合いをし、理解・納得を得て利用してもらっている。入居当初は家族の訪問を頻繁にしてもらったり、職員が利用者間を取り持つなど良い仲作りを支援し、馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する側、される側という意識を持たず一緒に暮らす家族の一員として過ごしている。入居者の方から料理・裁縫・礼儀作法等色々と教えてもらうこともよくある。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向を踏まえながら支援している。また、言葉や表情、視線からその真意を推し測ったり、それとなく確認して対応している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向・要望を聴き、担当職員と介護支援専門員が中心となってミーティングや会議で全職員と話し合いながら介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた定期見直しのほか毎月モニタリング会議を行って見直している。入居者の状態変化があった場合には、その都度医師との相談も踏まえ家族等と話し合い、計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ、入退院の手続きや通院・外出泊時の送迎等の支援がなされている。また、医療連携体制を活かして受診の回避等必要な支援に柔軟に対応して、本人・家族の満足度を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人なじみのかかりつけ医、又は本人や家族が希望した地域医療機関のかかりつけ医となっている。かかりつけ医には2週間に1回往診や診察をしてもらったり、情報の共有を図りながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居申し込み時、本人や家族に看取りケアの指針を説明し、文書で同意を得ている。看取りケアの指針は全職員に配布し、入居者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。また、急変した場合は、すぐ対応して貰えるよう医師とも話している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助の声かけなどは羞恥心にも配慮して、さりげなく行われている。また、個人記録についても、プライバシーに配慮された記録方法となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、入居者は起床から就寝まで個々の生活習慣に合わせた自分なりのペースで日々を過ごしており、職員は一人ひとりの状態や思いに配慮した支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に下ごしらえや盛り付け・片づけを行っている。介助を要する入居者が複数いるため全職員が一緒に食事を取る事は出来ていないが、和やかな雰囲気ですぐに食事がなされている。	○	グループホームの基本である共に暮らすという点からも職員と利用者が、同じ食事を同じテーブルと一緒に楽しく食べる事が出来るような、更なる工夫とその実現に向けた検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回、午前9時半から午後8時までの間に自由な時間に入浴することが出来る。なお、風呂は毎日沸かしており、希望すれば毎日入浴できる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣り、料理の下ごしらえ・盛り付け・食後の片付け、カレンダーの印しつけ、洗濯物たたみ、掃除、ゴミ出しなど一人ひとりの力を出してもらっているがそのための場面作りやお礼を言うなどの配慮をしている。また、ゲームや塗り絵、算数等個人の趣味や楽しみをレクリエーションに取り入れるなど楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出行事の外、その日の話の流れや思い付きの要望で散歩や買い物等の外出が行われている。また、家族と毎週外出する入居者もあり、柔軟な外出支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵を掛けることの弊害を全職員が理解しており、玄関や居室に鍵はかけられていない。見守りで入居者の所在・行動を把握・確認している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年に2回消防署の指導を得て防火訓練を実施している。	○	夜間時や職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加と協力を得た避難訓練の実施も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分補給は毎日記録し、水分は日に5回以上摂るよう支援している。なお、食事は入居者に応じて刻みにしたり、ミキサー食にするなどして配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には不快な音や光はなく、又、嫌な臭いもない。玄関や食堂兼リビングには季節の花や観葉植物が置かれており、又、雑飾りや絵が飾られ季節感が出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具関連用品はすべて本人が入居前に使用していたものを持参してもらっている。其の外にも使い慣れた整理ダンス、小物入れなどが置かれ、習字道具等の日用品や写真、飾り物などが持ち込まれ、入居者の居心地に配慮した居室づくりが支援されている。		